

I でん粉の概況

1 海外の動向

(1) でん粉製品概況

世界のでん粉製品（でん粉及び糖化製品などでん粉を加工したもの）の2008年の生産量は、7,266万4千トンで、2007年の7,052万7千トンから213万7千トン（3.0%）増加となる見込みである。地域別に見ると、アジアが世界全体の49.0%を占める最大の生産地となっており、次いで北アメリカ（27.7%）、ヨーロッパ（16.5%）の順となっている。アジアでの生産は、2007年までは他の地域に比べて急速に成長したが、2008年には、キャッサバの価格高騰や中国においてでん粉向けのとうもろこし使用を制限する政策の導入、9月のリーマンショックに端を発した世界同時不況などの影響によりその伸びが鈍化することとなった。

でん粉製品の種類別の内訳では、乾燥重量で、天然でん粉が2,122万4千トン、糖化製品が3,382万2千トン、発酵製品が1,124万9千トン、化工でん粉などが637万トンである。天然でん粉を原料別に見ると、コーンスターチが1,266万4千トン、タピオカでん粉が772万6千トン、ばれいしょでん粉が229万5千トン、小麦でん粉が122万4千トンとなっている。

でん粉製品の消費量は、原料である穀物価格の上昇と世界同時不況による需要の減退からその伸びは鈍化した。地域別に見ると、生産量と同様に、世界に占めるアジアのでん粉消費割合は上昇しており、1999年には35.6%であったが、2008年には46.7%を占めている。

※データは農畜産業振興機構委託調査会社 LMC International Ltd. による。

(2) とうもろこしの国際価格の推移

コーンスターチの原料であるとうもろこしについて、2008年4月～2009年3月のシカゴ先物相場（期近）を見ると、年度当初は一貫して上昇傾向で推移し、6月27日には最高で1ブッシェル当たり754.75セントと史上最高値を記録し、月平均も同698.89セントと高騰した。しかしながら、世界同時不況の影響からそれ以降は下降傾向で推移し、2009年3月の月平均の価格は、同376.50セントとなった。

2 国内の動向

(1) でん粉概況

平成20年産の国内産いもでん粉の生産は、ばれいしょでん粉については、平年並みの作柄であったものの、生食用、加工用などへの生産シフトによりでん粉原料用ばれいしょが減少したため、でん粉生産量は前年度から1万2千トン（5.1%）減少し、22万3千トンとなった。一方、かんしょでん粉については、小雨により遅植えの露地栽培を中心に初期生育が十分でなかったこと、生育後半に夜間の温度が高温で推移したことからいもの肥

大が十分に進まず、でん粉生産量は、不作であった前年度から1千トン(2.2%)増加の4万6千トンとなった。

コーンスターチ用とうもろこしの19年4月～20年3月の輸入量は、324万2千トンであった。でん粉の輸入量は、コーンスターチが477トン、ばれいしょでん粉が3,448トン、マニオカでん粉が14万6,629トン、サゴでん粉が1万7,656トン、その他が675トンであった。また、化工でん粉の輸入量は、でん粉誘導体が42万9,621トン、デキストリンが1万8,547トン、膠着剤及び仕上げ剤などが422トンであった。

3 国内産いもでん粉の生産動向

(1) ばれいしょでん粉

① ばれいしょの生産

平成20年産ばれいしょの作付面積は前年産比1,700ha減の5万5,200ha、作付農家戸数は前年産比500戸減の1万5,400戸、一戸当たりの作付面積は前年産同様の3.58haであった。

平均の1ha当たりのばれいしょの収量は38.6トン(前年産39.4トン)、総収量は213万1,000トン(前年産224万2,000トン)といずれも前年産比減となった。このうちでん粉原料用ばれいしょは101万9,000トン(前年産112万トン)と前年産比10万1,000トン減の収量となった。

② ばれいしょの生育概況

北海道のばれいしょは、6月から7月の少雨により育成が進まなかったが、その後天候が回復した。この結果、一株当たりのいもの数は一定程度生育したが、いも1個の重量はやや小さめとなり、平年並みの作柄となった。

③ ばれいしょでん粉の生産

平成20年産のばれいしょでん粉生産量は22万3,000トン(前年産23万8,000トン)と前年産比1万5,000トンの減となった。歩留は21.9%とほぼ前年並みであった。

(2) かんしょでん粉

① かんしょの生産

平成20年産のかんしょの作付面積は前年産比300ha増の1万7,300ha、作付農家戸数は前年産比500戸減の2万600戸、1戸当たりの作付面積は前年産比0.03ha増の0.84haであった。

平均の1ha当たりのかんしょの収量は26.6トン(前年産26.1トン)、総収量は46万1,000トン(前年産44万3,000トン)といずれも前年産に比べて増産となった。このうちでん粉原料用かんしょは15万1,000トン(前年産14万5,000トン)と前年産比6,000トン増の収量となった。

② かんしょの生育概況

でん粉原料用かんしょの主要な生産地の鹿児島では、生育前半から梅雨明けの小雨により、遅植えの露地栽培を中心に初期育成が十分でなかったこと、生育後半に夜間の温度が高温で推移したことからの肥大が十分に進まず、収量は平年を下回った。

③ かんしょでん粉の生産

平成 20 年産のかんしょでん粉生産量は、4 万 6,000 トン（前年産 4 万 5,000 トン）と前年産比 1,000 トンの増となった。歩留は 30.2%とほぼ前年並みであった。